

導入事例 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社様



まさに CCFL は理想的な提案でした。

—日本 KFC 様の節電に対する考え方、及び現状の取り組み状況を教えてください。

弊社では数年前から、社の方針として節電や CO2 削減に積極的に取り組んできました。

クールビズやウォームビズは以前から導入していましたし、チャレンジ 25 キャンペーン (チームマイナス 6%) にも参加しています。具体的な取り組みとしては、蛍光灯やエアコンの電源は各フロアブロックごとに細分化して不要な箇所の消灯をこまめに行なったり、室温設定も夏季は 28℃、冬季は 20℃に設定するなど全社で徹底しています。

東日本大震災発生後は、スーパークールビズの実施と併せてノー残業デーを設けたり、受付や通路、さらにオフィス内の蛍光灯の約半数を消灯し、節電に努めてきました。また、窓ガラスに断熱フィルムを貼る事や、グリーンカーテン等も検討しましたが、建物の形状に合わなかったため断念せざるを得ませんでした。そこで、代わりにエア搬送ファンを導入して、室内の換気・空調環境の効率化を図りました。今回の CCFL 導入も併せ、積極的に節電に取り組んでいます。

—CCFL 導入に至った経緯を教えてください。

蛍光灯の LED 化は昨年度より検討しており、すでに数社から説明を受けていました。

震災後、オフィスの節電対策の一環で本格的に導入計画が進む中、いくつかの提案をもとに試算してみたところ、LED は投資回収に最低 10 年はかかる事がわかりました。そんな矢先、こちらの CCFL の提案を頂いたわけです。

5~6 年で回収が見込めるという低コストで、かつ、長寿命という製品の特徴やコストパフォーマンスに魅力を感じ、社屋ビルオーナー様にご協力とご理解を頂き導入することができました。

—CCFL 導入後の状況はいかがですか。

2011 年 9 月に CCFL への交換工事を実施しました。その結果、電気使用量は前年に対し 22%も削減できました。

実は導入前の半年間も震災後の節電対策で平均 25%削減できていましたが、先ほども申しましたように蛍光灯を約半数消灯するなど、職場環境的にはあまり良くない状況でした。弊社としては、このような環境を早期に改善しなければ、と考えていましたので、まさに CCFL は理想的な提案でした。



日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

人事総務ユニット 総務チーム
アシスタントマネージャー

古岩祐城 氏

